

令和5年度事業報告書

令和5年4月 1日から
令和6年3月31日まで

一般財団法人 日本モーターボート競走会

目次

I. 概況	・・・・・・・・・・	1
II. 実施した競走実施業務に関する事業		
1. 競技関係事務		
(1) 選手、ボート及びモーターの検査に関する事務	・・・・・・・・・・	3
(2) 競技の審判に関する事務	・・・・・・・・・・	3
(3) 選手の管理に関する事務	・・・・・・・・・・	3
(4) その他競技運営事務	・・・・・・・・・・	3
2. 選手、競走に使用するボート及びモーター、審判員並びに検査員の登録		
(1) 選手、審判員及び検査員の試験	・・・・・・・・・・	3
(2) 選手、審判員及び検査員の登録	・・・・・・・・・・	4
(3) ボート・モーターの検査及び登録	・・・・・・・・・・	4
(4) 選手、審判員及び検査員登録資格審査会	・・・・・・・・・・	5
3. 選手の出場のあっせん		
(1) 選手の出場のあっせん	・・・・・・・・・・	5
(2) 選手出場あっせん委員会	・・・・・・・・・・	6
(3) ボートレースオールスター出場選手選考委員会	・・・・・・・・・・	7
(4) レディースオールスター出場選手選考委員会	・・・・・・・・・・	7
(5) 選手出場あっせんに関する会議等	・・・・・・・・・・	8
(6) あっせん及び番組編成支援システムの維持管理及び改善	・・・・・・・・・・	8
4. 選手、審判員及び検査員の養成及び訓練		
(1) 選手、審判員及び検査員の養成	・・・・・・・・・・	9
(2) 選手、審判員及び検査員の訓練	・・・・・・・・・・	10
(3) ボートレーサー養成所の運営	・・・・・・・・・・	12
5. 選手、審判員及び検査員の褒賞及び懲戒		
(1) 選手、審判員及び検査員の褒賞懲戒審議会	・・・・・・・・・・	13
(2) 公正の確保	・・・・・・・・・・	13
6. ボート及びモーターの改良、競技に必要な設備の改善並びに競技の実施方法に関する調査及び研究		
(1) 競技運営の改善研究	・・・・・・・・・・	17
(2) 事故防止対策	・・・・・・・・・・	20
(3) ボート等の改善に関する調査研究	・・・・・・・・・・	23

7. 競走の公正かつ円滑な実施を図るための企画・立案	
(1) 諸体制の強化	・ ・ ・ ・ 2 5
(2) ボートレースの普及及びイメージアップを図るための広報	・ ・ ・ ・ 2 8
(3) 集客のための広報	・ ・ ・ ・ 3 2
(4) 関係者の資質向上に関する事業	・ ・ ・ ・ 3 3
(5) その他の事業	・ ・ ・ ・ 3 3
8. 海事知識の普及	
(1) アマチュアモーターボートレースの支援	・ ・ ・ ・ 3 4
(2) ゴムボート大会等の実施	・ ・ ・ ・ 3 4
(3) 各地海事広報協会との共同事業の実施	・ ・ ・ ・ 3 4
Ⅲ. 実施した競走実施業務以外の業務	
1. その他本会の目的を達成するために必要な事業	
(1) 広域発売の推進	・ ・ ・ ・ 3 6
Ⅳ. 理事会、評議員会等の開催及び認可事項	
1. 理事会、評議員会等	
(1) 理事会	・ ・ ・ ・ 3 7
(2) 評議員会	・ ・ ・ ・ 3 8
2. 認可事項	
(1) 役員を選任について	・ ・ ・ ・ 3 8
(2) 令和5年度収支予算変更について	・ ・ ・ ・ 3 8
(3) 令和6年度事業計画及び収支予算について	・ ・ ・ ・ 3 8
3. 三規程委員会委員	
(1) 選手、審判員及び検査員登録資格審査会	・ ・ ・ ・ 3 9
(2) 選手出場あっせん委員会	・ ・ ・ ・ 3 9
(3) 選手、審判員及び検査員褒賞懲戒審議会	・ ・ ・ ・ 3 9
4. 役員、評議員及び職員	
(1) 役員	・ ・ ・ ・ 4 0
(2) 評議員	・ ・ ・ ・ 4 0
(3) 職員等	・ ・ ・ ・ 4 0
5. その他	
(1) 令和6年3月31日現在の株式保有の概要	・ ・ ・ ・ 4 1

I. 概況

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行し、新しい生活様式が定着した中、電話投票の売上は増加し続け、総売上は、微増であるが、対前年度比0.3%増の2兆4,220億円と3年連続で歴代最高売上を更新した。

このような中、国土交通大臣の指定を受けた競走実施機関として、競走実施業務を適切かつ確実に実施することを最重点事業として位置付け、「審判、検査等の競技関係事務」、「選手、ボート・モーター、審判員及び検査員の登録」、「選手の出場のあっせん」、「選手、審判員及び検査員の養成及び訓練」、その他の業務を公正・円滑に実施した。

競技運営においては、よりの確な判定を行うためSG審判員制度を継続実施したほか、競技運営に関する監査委員会による審判・検査業務及びその他公正安全な競技運営の実施に関する監査を行った。また、各種登録事務のデジタル化を推進するため、登録簿の電磁的記録媒体による管理への移行や、登録票交付廃止の検討を行った。

レースの公正を害する行為の再発防止のため、選手指導を徹底するとともに、全選手宿舍の監視カメラを増設する等の管理・検査体制を強化した。また、全ての業界関係者が各種法令を遵守し、社会的責任を果たすコンプライアンス体制を構築するため、コンプライアンス委員会を開催した。

スタート事故防止においては、スタート事故率が0.304と事故防止目標の達成とはならなかったが、返還率については1.154%と3年ぶりの目標達成となった。スタート事故をはじめとする各種事故防止の指導強化に向け、デジタルサイネージ、空中線ライブ映像カメラ等を導入し、指導方法の改善を図るとともに、スタート事故防止に向けたテクノロジー活用研究委員会と連携し、スタート事故防止に関する実験を行った。

養成訓練においては、より効果的な訓練が行えるよう、体幹トレーニングに必要な設備や器具を導入したほか、栄養学に関する指導を行い、体質別の食事指導・適切な減量方法に関する教育を行った。また、選手を招聘した訓練や能力別訓練等の実施により、操縦訓練の充実に努めた。

スター選手の育成においては、トップルーキー及びフレッシュルーキーの対象選手を新たに選出し、地区内でのあっせん優遇措置、操縦・整備の実技訓練やプロ意識・メンタル等の向上を目的とした講習会を実施したほか、広報活動として、注目度の高い選手のプロモーション活動やマスメディアへの露出を積極的に展開した。

その他、出場選手へ快適な環境を提供するため、ボートレース戸田、平和島及び福岡の選手宿舍を新築した。

また、競走会が運営するボートレースチケットショップでは、ギャンブル等依存症対策として窓口対応するとともに場内にポスターを掲示する等の啓発を行った。

Ⅱ. 実施した競走実施業務に関する事業

1. 競技関係事務

下表の競走実施に伴い、モーターボート競走法第33条第1号に基づき、以下の競技関係事務を実施した。

なお、開催日数は前年度より19日多い4,619日となった。

ボートレース場	開催日数
桐 生	188日 (全日程ナイター)
戸 田	198日
江戸川	182日
平和島	180日
多摩川	194日
浜名湖	200日
蒲 郡	200日 (全日程ナイター)
常 滑	200日
津	179日
三 国	192日
琵琶湖	186日
住之江	198日 (うちナイター188日)
尼 崎	186日
鳴 門	180日
丸 亀	183日 (全日程ナイター)
児 島	198日
宮 島	201日
徳 山	198日
下 関	194日 (全日程ナイター、うちミッドナイト26日)
若 松	195日 (全日程ナイター、うちミッドナイト27日)
芦 屋	198日
福 岡	191日
唐 津	198日
大 村	200日 (全日程ナイター、うちミッドナイト28日)
合 計	4,619日 (うちナイター1,348日)

(1) 選手、ボート及びモーターの検査に関する事務

モーターボート競走法第33条第1号に基づき、選手、ボート及びモーターの検査を行った。選手に対する検査は、身体上の支障の有無、体重等の測定を行い、ボート及びモーターに対する検査は、ボート及びモーター登録規格に規定する要件、構造上の欠陥の有無等の確認を有資格者である検査員が行った。

また、公正を害する行為の再発防止の観点から、全場に配備したゲート型及びハンディ型金属探知機を活用し、私物検査を行った。

(2) 競技の審判に関する事務

モーターボート競走法第33条第1号に基づき、競走に出場したモーターボートの出走、失格及び着順を判定し、並びに勝舟の決定を有資格者である審判員が行った。

また、判定用カメラ（センターカメラ及び各コーナーカメラ）の映像を活用した審判判定を行うとともに、出場選手に対しては、過去の事故映像を用いた指導や競走水面の特性等についての指導を行った。

(3) 選手の管理に関する事務

モーターボート競走法第33条第1号に基づき、前日検査から管理解除までの間、選手を外部と遮断した。

また、公正を害する行為の再発防止の観点から更なる選手管理を徹底するため、前検日に全能力を発揮するよう指導を行うとともに、競技部内における抜き打ち私物検査の実施、職員の巡回等による監視体制の強化、記者を含めた関係者による通信機器の使用禁止の徹底を図った。

選手宿舎においては、電波遮断装置をボートレース浜名湖へ新規導入するとともに、電波検知装置のフィールドテストをボートレース尼崎にて実施した。併せて、全選手宿舎の監視カメラを増設するとともに、貴重品管理を徹底するため、個人別保管庫を設置した。

(4) その他競技運営事務

モーターボート競走法第33条第1号に基づき、モーターボートの確認、出場準備、紹介、救助、番組編成、燃料管理、選手宿舎の運営等に関する事務を行った。

2. 選手、競走に使用するボート及びモーター、審判員並びに検査員の登録

(1) 選手、審判員及び検査員の試験

選手資格検定試験を2回（第171回、第172回）、審判員資格検定試験を1回（第131回）、検査員資格検定試験を1回（第111回）実施し、選手52名、審判員13名、検査員13名が合格した。

(2) 選手、審判員及び検査員の登録

(ア) 登録更新検査及び再登録検査

登録更新検査（選手13回、審判員13回、検査員13回）を実施した。

(イ) 登録及び登録消除

項目	選手	審判員	検査員
令和4年度末の登録者	1,609名 (253)	443名 (12)	446名 (12)
登録者(再)	0名 (0)	1名 (1)	1名 (1)
登録者(新)	52名 (18)	13名 (0)	13名 (0)
消除者	47名 (10)	13名 (1)	13名 (1)
令和5年度末の登録者	1,614名 (261)	444名 (12)	447名 (12)

()内は女子の人数

(ウ) 選手、審判員及び検査員登録事務のデジタル化

選手、審判員及び検査員登録簿の電磁的記録媒体による管理への移行や、各登録票交付廃止の検討を行った。

(3) ボート・モーターの検査及び登録

(ア) 登録検査

ボート及びモーターの登録検査を各所有者の申請に基づき、ボートレース場（ボートについては、ヤマト発動機株式会社で実施）において、ボート24回、モーター23回実施した。

(イ) 登録及び登録消除

項目	ボート	モーター
令和4年度末の登録数	1,564隻	1,520基
登録数(再)	0隻	0基
登録数(新)	1,560隻	1,453基
消除数	1,689隻	1,643基
令和5年度末の登録数	1,435隻	1,330基

(ウ) ボート及びモーター登録事務のデジタル化

ボート及びモーター登録簿の電磁的記録媒体による管理への移行や、各登録票交付廃止の検討を行った。

(4) 選手、審判員及び検査員登録資格審査会

第63回選手、審判員及び検査員登録資格審査会を開催し、登録資格審査会運営の基本方針について審議検討を行った。

3. 選手の出場のあっせん

(1) 選手の出場のあっせん

モーターボート競走法第33条第3号に基づき、競走の公正かつ円滑な実施を図るため、選手の出場あっせんを行った。

項目 月	選手 総数	あっせん日数				開催 日数
		A 1	A 2	B 1	B 2	
4 月	1,586	14.5	14.6	11.1	7.8	378
5 月	1,608	15.6	15.4	12.3	8.6	398
6 月	1,603	15.7	16.0	12.5	9.2	395
7 月	1,602	15.0	15.2	12.2	9.6	407
8 月	1,597	15.3	15.8	12.4	9.2	417
9 月	1,595	13.9	13.9	10.7	7.7	363
10 月	1,590	14.3	14.3	11.3	7.5	359
11 月	1,614	13.3	13.3	10.2	7.0	327
12 月	1,612	16.0	15.9	12.9	9.0	412
1 月	1,612	15.7	15.9	12.3	8.7	417
2 月	1,596	14.7	14.2	11.2	7.3	368
3 月	1,596	14.9	14.8	11.7	8.0	378
令和5年度平均	1,601	14.9	14.9	11.7	8.3	385

(2) 選手出場あっせん委員会

選手出場あっせん規程に基づき、選手級別の決定、選手出場あっせん保留等、選手の出場のあっせんに関する重要事項を審議するため、4回開催した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
211	令和5年 5月9日	青葉六本木 ビル	5名	(審議事項) 1. 選手級別の決定について (報告事項) 1. 選手出場あっせん規程実施細則第7条第1項第8号該当選手について 2. 選手出場あっせん規程実施細則第12条第1項第2号適用選手について 3. 選手出場あっせん規程実施細則第12条第1項第3号適用選手について 4. 令和4年度選手出場あっせんの状況について 5. 令和5年のあっせん拒否状況について
212	9月7日付	書面決議	5名	(審議事項) 1. 選手出場あっせん規程第8条等の可否について
213	10月2日付	書面決議	5名	(審議事項) 1. 選手出場あっせん規程実施細則の適用条項変更の可否について
214	11月13日	青葉六本木 ビル	5名	(審議事項) 1. 選手級別の決定について (報告事項) 1. 選手出場あっせん規程実施細則第7条第1項第8号該当選手について 2. 選手出場あっせん規程実施細則第12条第1項第2号適用選手について 3. 選手出場あっせん規程実施細則第12条第1項第3号適用選手について 4. 令和6年のあっせん拒否状況について

- (3) ボートレースオールスター出場選手選考委員会
全国ファン投票による出場選手の選考を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
1	令和5年 11月17日	BOATRACE 六本木	6名	1. 第51回ボートレースオールスターファン投票の実施方法について
2	令和6年 3月13日	青葉六本木 ビル	6名	1. 第51回ボートレースオールスターファン投票の実施結果について 2. 第51回ボートレースオールスター出場選手の選考について

- (4) レディースオールスター出場選手選考委員会
全国ファン投票による出場選手の選考を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
1	令和5年 9月11日	青葉六本木 ビル	6名	1. 第8回レディースオールスターファン投票の実施方法について
2	11月17日	BOATRACE 六本木	6名	1. 第9回レディースオールスターファン投票の実施方法について
3	12月12日	青葉六本木 ビル	6名	1. 第8回レディースオールスターファン投票の実施結果について 2. 第8回レディースオールスター出場選手の選考について
4	令和6年 3月13日	青葉六本木 ビル	6名	1. 第9回レディースオールスターファン投票の実施結果について 2. 第9回レディースオールスター出場選手の選考について

(5) 選手出場あっせんに関する会議等

(ア) あっせん事務連絡会議

あっせん業務の円滑な実施を図るため、次年度のあっせんに関する方針、規則改正等を関係者に周知するため開催した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
1	令和5年 12月15日	ビジョン センター 品川	70名	(検討事項) 1. 令和6年度グレード別競走開催予定表について 2. 令和6年度G I・G II競走の選出方法について 3. 令和6年度女子選手あっせんについて 4. 令和6年度企画レースの申請について 5. 2024スター候補選手について 6. ルーキーシリーズ及びヴィーナスシリーズ出場対象選手について (報告事項) 1. 令和5年度不参加・出場取消状況等について等

(イ) 地区別あっせん研究会

あっせん業務の円滑な実施を図るとともに、現行制度、規則等の改善点を研究、協議するため開催した。

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和5年 7月31日	ビジョンセンター品川	23名	1. あっせんに関する諸問題について 2. 番組編成に関する諸問題について
8月 8日	リファレンス大阪第4ビル	25名	
8月22日	リファレンス駅東ビル	24名	

(6) あっせん及び番組編成支援システムの維持管理及び改善

あっせん及び番組編成支援システムの効率化を図るため、振興会と協力して、作業上の各種改善を図るとともに、同システムの維持管理に努めた。

4. 選手、審判員及び検査員の養成及び訓練

(1) 選手、審判員及び検査員の養成

(ア) 選手の養成

選手の養成訓練においては、訓練の質の向上を図るため、体幹トレーニングに必要な設備や器具を新たに導入し、トレーニングマニュアルを周知した上でトレーニングを実施した。また、栄養学に関する指導を行い、体質別の食事指導・適切な減量方法に関する教育を行った。

期別 区分	第133期 選手				第134期 選手				第135期 選手			
	一般		特別		一般		特別		一般		特別	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
応募者数	1,013	203	1	0	1,098	236	1	0	851	183	1	0
第1次合格者数	135	36	—	—	135	48	—	—	135	48	—	—
第2次合格者数	69	20	—	—	69	25	—	—	69	25	—	—
第3次合格者数	42	10	0	0	38	14	0	0	38	14	0	0
入所者数	42	10	0	0	38	14	0	0	38	14	0	0
養成期間	令和4年10月1日 ～ 令和5年9月22日				令和5年4月1日 ～ 令和6年3月22日				令和5年10月1日 ～ 令和6年9月20日 (予定)			
修了者数 又は 現在員数	男		女		男		女		男		女	
	18		9		16		9		19		9	

※第134期から第135期へ女子1名編入

(イ) 審判員及び検査員の養成

期別 区分	第87期審判員 第88期検査員	
応募者数	(男) 33	(女) 0
合格者数	28	0
入所者数	14	0
養成期間	令和5年4月1日～ 令和6年3月22日	
修了者数	13	0

(2) 選手、審判員及び検査員の訓練

(ア) 選手定期訓練

1,444名の選手（登録2年以上）を対象に18回にわたり競走の健全化及び競走の技術の向上を図るため指導を行うとともに、併せて選手の資質向上を図るため講話等を実施した。

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
1	令和5年 5月10日～12日	ホートレーサー 養成所	80名	1. 業務指導 (1) 業務部
2	5月15日～17日		85名	(2) 調査室
3	5月24日～26日		85名	2. 講話 (1) 「プロスポーツ選手のためのコンプライアンス講話」
4	5月29日～31日		87名	(2) 「SNS・インターネットトラブル回避講話」
5	6月 5日～ 7日		87名	(3) 「目の衰えを防止するためのビジョントレーニング」
6	6月19日～21日		89名	(4) 「競技能力を向上させるためのビジョントレーニング」
7	6月26日～28日		91名	(5) 「公営競技選手の在り方」（登録10年選手のみ）
8	7月 3日～ 5日		83名	3. 体育 (1) 体幹トレーニングの概要、トレーニングマニュアル説明（座学）
9	7月10日～12日		83名	(2) 体組成測定及び体幹トレーニング
10	7月18日～20日		76名	(3) コンディショニングストレッチ
11	8月28日～30日		77名	
12	9月13日～15日		93名	
13	10月25日～27日		84名	
14	11月 6日～ 8日		80名	
15	11月27日～29日		79名	
16	12月 6日～ 8日		60名	
17	12月18日～20日		48名	
18	令和6年 2月20日～22日			77名

(イ) 新人選手定期・臨時訓練

110名の選手（登録2年未満の者及び登録5年未満のB1級以上未経験の者）を対象に4回にわたり競走の健全化及び競走の技術の向上を図るため、操縦を主体とした実技訓練及び指導等を実施した。

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内容
1	令和5年 9月4日～7日	ボートレーサー 養成所	28名	1. 操縦 2. 整備学 3. 業務指導
2	9月25日～28日		29名	(1) 調査室 (2) 養成所
3	10月10日～13日		24名	4. 講話 (1) 「モラル・コンプライアンス講話」
4	10月17日～20日		29名	5. 体育 (1) 体幹トレーニング (2) 体組成測定

(ウ) 選手会支部別自主訓練

選手の資質向上並びにスター選手育成を目的として、ボートレース場等において模擬レース等の実技訓練を行い、新人選手を中心とした指導を行った。

(エ) 審判員及び検査員定期訓練

431名の審判員及び検査員を対象に14回にわたり競走の健全化及び競技運営の技術の向上を図るため業務報告を行うとともに、併せて審判員及び検査員の資質向上を図るため実務に即した講話等を実施した。

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内容
1	令和5年 10月29日・30日	ボートレース 桐生	33名	1. 業務報告 (1) 業務部
2	11月1日・2日	ボートレーサー 養成所	36名	(2) 調査室 (3) 企画部
3	11月9日・10日	ボートレーサー 養成所	43名	2. 講話 (1) 「公営競技実務者のためのコンプライアンス講話」
4	11月13日・14日	ボートレーサー 養成所	29名	(2) 「預かり品の適切な管理」
5	11月17日・18日	ボートレース 下関	31名	3. 施設見学(レース場のみ)
6	11月20日・21日	ボートレーサー 養成所	24名	4. 救急救命法(第2・3・6・10回のみ)
7	11月23日・24日	ボートレース 児島	32名	5. 整備関係実技訓練(第4・12回若手実務者のみ)

8	12月 1日・ 2日	ボートレース 桐生	28名
9	12月24日・ 25日	ボートレース 下関	39名
10	令和6年 1月11日・ 12日	ボートレーサー 養成所	35名
11	1月15日・ 16日	ボートレース 桐生	17名
12	2月 5日・ 6日	ボートレーサー 養成所	24名
13	2月 7日・ 8日	ボートレース 下関	40名
14	2月28日・ 29日	ボートレース 児島	20名

(3) ボートレーサー養成所の運営

(ア) 施設の維持管理

各種設備、機材及び機器類の点検管理に万全を期し、選手、審判員及び検査員の養成訓練並びに定期訓練の施設としての機能維持に努めるとともに、修繕計画に基づく各種設備、機材及び機器類の修繕等を行った。

(イ) 施設の活用

選手、審判員及び検査員の養成訓練並びに定期訓練の施設として活用した。

5. 選手、審判員及び検査員の褒賞及び懲戒

(1) 選手、審判員及び検査員の褒賞懲戒審議会

選手、審判員及び検査員褒賞懲戒規程に基づき、褒賞及び懲戒に関する事項を審議するため、選手、審判員及び検査員褒賞懲戒審議会を7回開催した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
352	令和5年 5月17日	青葉六本木 ビル	9名	選手の褒賞 10名 実務者の褒賞 3名 選手の懲戒 9名
353	7月26日	青葉六本木 ビル	9名	選手の褒賞 12名 実務者の褒賞 3名 選手の懲戒 7名 検査員の懲戒 1名
354	10月 4日	BOATRACE 六本木	10名	選手の褒賞 13名 実務者の褒賞 3名 選手の懲戒 4名
355	12月 8日	青葉六本木 ビル	10名	選手の褒賞 9名 実務者の褒賞 6名 選手の懲戒 7名
356	令和6年 2月28日	青葉六本木 ビル	10名	選手の褒賞 24名 実務者の褒賞 5名 選手の懲戒 3名
357	3月15日	青葉六本木 ビル	9名	選手の懲戒 2名
358	3月26日	青葉六本木 ビル	9名	選手の懲戒 1名

(2) 公正の確保

(ア) 競走の公正を害する行為の防止対策の調査研究

(a) 全国公正指導委員会議

競走運営の健全化に資するため、競走の公正を害する行為の防止に関する調査研究及び選手の動向調査並びに指導事項の検討を行った。

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和6年3月6日	BOATRACE 六本木	32名	1. 褒賞懲戒審議会の結果について 2. 選手関係諸問題について 3. 選手指導について 4. 諸情報の交換

(b) 公正業務の現地調査

担当者が現地に赴き諸情報を収集し、競走の公正を害する行為の防止を図った。

実施年月日	実施場所	回数	内容
令和5年4月 ～ 令和6年3月	各地 ボートレース場等	2回	1. 諸情報の収集

(c) 公正指導員会議

円滑かつ効果的な調査活動を促進するため、各地区の公正指導員に対し調査活動に必要な知識を付与し、併せて情報の交換を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内容
1	令和5年 9月 8日	青葉六本木 ビル	12名	1. 諸情報の交換
2	令和6年 3月 7日	青葉六本木 ビル	14名	

(d) 公営競技公正連絡会議

公営競技5団体相互の緊密な連携を図るとともに、公営競技の健全な発展を期すため情報の交換を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内容
90	令和5年 8月 3日	JKA	20名	1. 諸情報の交換
91	12月 7日	JRA	21名	

(e) ボートレースの公正確保に関する検証委員会

ボートレースの公正確保に必要な事項について、専門的な知識を有する関係者等による検証を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内容
5	令和5年 8月10日付	書面決議	11名	1. レースに関する対応について
6	9月 6日	BOATRACE 六本木	10名	
7	令和6年 2月 8日	BOATRACE 六本木	11名	

(f) ボートレースのコンプライアンス委員会

全ての業界関係者が各種法令を遵守し、社会的責任を果たすコンプライアンス体制の構築を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
1	令和5年 7月13日	BOATRACE 六本木	14名	1. コンプライアンス体制の構築について
2	令和6年 2月8日	BOATRACE 六本木	14名	1. 令和5年度コンプライアンス研修会の結果について

(g) インターネットの監視システムの運用

SNS等での公正を害する行為に関する書き込み並びに選手のSNS等での発信内容を把握するため、外部業者と契約し、インターネット上の書き込みを監視した。

(イ) ふれあい研修会

本会支部が主催するふれあい研修会において、選手及び家族に対して選手という職業への理解を深めるための指導を行った。

実施年月日	実施回数	参加者数	
令和5年6月～11月	19回	総 数	651名
		選 手	335名
		家 族	184名
		関係者	132名

(ウ) 選手等への指導強化

(a) 新人選手の指導強化

新人選手に対する指導要領に基づき選手会及び公正指導委員と協力し、個人面談等において初出走に向けた心構え等の指導や、選手会主催の再訓練において新人選手の懲戒事例や各種事故の状況について指導を行った。

(b) 競走会と保安協会との地区別情報交換会議

保安協会との緊密な連携を図るとともに、ボートレースの健全な発展を期すため情報の交換を行った。

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和5年 10月15日	東海支局	14名	1. 選手関係諸問題 2. 諸情報の交換
10月28日	ボートレース住之江	17名	
11月 5日	ボートレース宮島	16名	
11月23日	ボートレース若松	14名	
12月 1日	TKP大森	19名	

(c) 面談による選手の指導

全選手を対象としたモーターボート競走選手倫理規程やモラル・コンプライアンスを確認する面談を実施し、特に登録10年未満の選手に対しては複数回の面談を実施した。

(d) 選手養成員への指導

モーターボート関係調査室よりデビュー前の選手養成員に対し、3回に分け「関係者としての日常の心構え」、「競走法の罰則と褒賞懲戒審議会での事例」、「トラブルへの対応等の私生活のあり方」について指導を行った。

(エ) 内部通報制度による情報収集

選手及びその家族に対し、私生活上の諸問題、仕事に関する疑問等について相談できる環境づくりとして、従来のフリーダイヤル対応のほか、メールによる相談対応を行い情報収集に努めた。また、新人選手やその家族に対しフリーダイヤル等の周知を行った。

6. ボート及びモーターの改良、競技に必要な設備の改善並びに競技の実施方法に関する調査及び研究

(1) 競技運営の改善研究

(ア) 競技運営の改善、合理化

(a) 競技運営研究委員会

競走運営の円滑な実施を図るため、競技運営、選手関係諸問題等、現行諸制度について検討した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
119	令和5年 12月7日	青葉六本木 ビル	9名	1. 競技運営関係諸問題について
120	令和6年 1月15日		9名	

(b) 各種実務担当者会議

①審判委員長・競技委員長会議

競走運営の円滑な実施を図るため、各地の審判委員長及び競技委員長を招致し、競技運営上の諸問題について検討した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
1	令和5年 10月11日	青葉六本木 ビル	48名	1. 競走の公正確保について 2. 競技運営関係諸問題について 3. 審判関係諸問題について
2	令和6年 3月8日	及び各支局 (リモート)	44名	

②地区代表実務検討会

地区別実務検討会においてとりまとめられた結果を代表支部が持ち寄り、検討を行った。

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和6年3月21日	青葉六本木 ビル 及び各支局 (リモート)	7名	1. 競技運営関係諸問題について

③審判判定研究部会

競技運営の円滑な実施を図るため、各地の審判委員長・副審判委員長を招致し、審判判定上の諸問題について検討した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
1	令和5年 6月9日	青葉六本木 ビル 及び各支局 (リモート)	21名	1. 競技規程第21条に関する判定 (判断) 基準の整理について 2. 判定の検証について 3. 失格欠場艇表示盤の消灯につ いて 4. 多角的な審判判定映像の検討 について
2	7月11日		22名	
3	令和6年 1月23日		21名	
4	3月25日		23名	

④SG競走等実施要綱打合せ会議

全国発売対応として、競走運営の統一を図るため開催した。

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和6年1月30日	ビジョンセ ンター品川	69名	1. 令和6年度SG競走等実施要 綱(案)について

⑤レスキュー講習会

レスキュー艇要員の更なる救助体制の充実と技量向上を目的として、海上保安庁及び公益社団法人日本水難救済会職員の指導による「レスキュー救助の留意点」の実技訓練等を実施した。

回	実施年月日	実施場所	参加支部等	内 容
1	令和5年 8月31日	ボートレース 宮島	鳴門、丸亀、宮島	1. 業界の一般情勢 2. VTR検証・指導 3. 救助実技 4. 海上保安庁による講 義及び実技指導 5. 検討会
2	9月7日	ボートレース 蒲郡	蒲郡、常滑、津	
3	10月3日	ボートレース 桐生	桐生、戸田、江戸川、 平和島	
4	10月19日	ボートレース 児島	児島、徳山、若松、 浜名湖	
5	10月22日	ボートレース 尼崎	三国、琵琶湖、 住之江、尼崎、多摩川	
6	11月7日	ボートレース 下関	下関、芦屋、福岡、 唐津、大村、養成所	

(c) 競技運営に関する調査研究

競技運営上の諸問題に関する各種調査研究として、ボートレース常滑、津及び児島における判定用カメラを更新するとともに、自動展示タイム計測システムの導入に向けて、ハレーションに対するカメラ精度の調整を行った。

また、お客さまの注目度の最も高いSG競走及びプレミアムGI競走において、よりの確な判定を行うため、SG審判員が審判業務に関する調査研究を行った。

(d) 競技運営に関する監査委員会

法令に基づく公正かつ健全な競技運営に努めるため、審判、検査及びその他公正安全な競技運営の実施に関する監査が行われた。

回	実施年月日	実施場所	内 容
1	令和5年 5月22日	ボートレース 若松	1. 審判業務に関する監査 2. 検査業務に関する監査
2	9月16日 ・17日	ボートレース 尼崎	3. 公正安全な競技運営の実施に関する監査 (実地監査及び書面監査)

(e) 競走の公正に関する業務連絡会

競走の公正に関する諸業務について、競走会、選手会、全施協、振興会及び保安協会の5団体間での情報交換と情報共有を図ることを目的として開催した。

実施年月日	実施場所	内 容
令和6年3月27日	青葉六本木 ビル	1. 競走の公正に関する業務連絡会について 2. 競技運営に関する監査委員会の報告 3. 業務監査委員会の報告 4. 競走会、選手会による業務連絡会の報告 5. 第5～7回ボートレースの公正確保に関する検証委員会の報告

(f) 競走運営に関する業務連絡会

競走運営に関する諸問題について、選手会との情報交換と情報共有を図り、危機管理の徹底と競走の公正の確保に努めることを目的として、12回開催した。

(g) ボートレースコロナ対策決定本部会議

競走会、選手会、全施協及び振興会で構成するボートレースコロナ対策決定本部が主催する会議に参加し、感染症対策に関する検討を適宜行った。

(イ) 水上施設の改善研究等

スタートに係る各種標識等の改善に関しての調査を行うとともに、施設・設備を維持管理し、故障・不具合等を未然に防止するために策定した水上施設の点検ガイドラインに基づく点検を行った。

(ウ) 選手宿舎施設の新築・改修

出場する選手に快適な環境を提供し、より一層の公正・安全な競技運営を実施するため、ボートレース戸田、平和島及び福岡の選手宿舎を新築した。

(2) 事故防止対策

(ア) 各種事故の調査研究

(a) スタート事故

年間スタート事故防止目標を設定し、注意を喚起するとともに、事故防止目標、連続無事故（20日以上）を達成した支部に対し表彰を行った。

併せて、スタート事故防止強化場を指定し、当該場においてスタート事故防止に効果的な施設・設備の見直し等を行った。

(b) 人身事故

各地で発生した人身事故映像をもとに、選手定期訓練において映像を用いた指導を行った。

また、前検日において、各ボートレース場で発生した人身事故映像をもとに、各支部がボートレース場固有の事故に対する指導を行った。

(イ) スタート事故防止に関する選手指導

スタート事故防止に関し、具体的な目標数値や事故状況等のデータ提供により選手指導を行ったほか、スタート事故防止強化期間において、優勝戦・準優勝戦での選手責任事由によるスタート事故者を支局に召致並びにルーキーシリーズまたはヴィーナスシリーズでの選手責任事由によるスタート事故者を本部に召致し、指導することでスタート事故防止の意識向上を図った。

また、各種事故防止に向けた指導強化に向け、デジタルサイネージ、空中線ライブ映像カメラ等のデジタル機材を全場へ導入し、視覚によるリアルタイムでの気象情報等の確認が可能となるよう指導環境の改善を図った。

なお、各種スタート事故防止目標の達成については次のとおりであった。

(a) 事故率0.29以内かつ返還率1.20%以内

ボートレース場	事故率	返還率
徳山	0.152	0.38%
福岡	0.194	0.82%
尼崎	0.210	0.85%
住之江	0.227	0.94%
宮島	0.249	0.84%
大村	0.250	0.81%
芦屋	0.268	1.11%
琵琶湖	0.274	1.15%
桐生	0.277	0.81%
下関	0.284	0.73%
丸亀	0.284	1.06%

(b) 連続スタート無事故

スタート無事故を連続20日以上達成したのは、ボートレース琵琶湖、尼崎、丸亀、宮島、徳山（1年間で2度達成）及び大村の計6場であった。

(c) 全国ボートレース場事故率0.29以内かつ地元ボートレース場事故率0.29以内（選手会支部）

令和4年11月～令和5年4月

選手会支部	全国事故率	地元事故率
兵庫	0.164	0.131
山口	0.166	0.110
長崎	0.205	0.174
広島	0.232	0.181
三重	0.241	0.121
滋賀	0.279	0.163
大阪	0.283	0.171

令和5年5月～10月

選手会支部	全国事故率	地元事故率
静岡	0.227	0.261
広島	0.229	0.212
山口	0.257	0.215

(ウ) 人身事故等の防止に関する選手指導

選手の人身事故防止に対する意識の高揚を図るとともに、人身事故の未然防止を促進するため、未然防止に貢献のあった選手を表彰した。

登録番号	被表彰選手	登録番号	被表彰選手
3776	横井 健太	3792	田中 豪
3796	長野 道臣	3983	須藤 博倫
4023	柴田 友和	4144	石塚 久也
4188	久田 敏之	4239	竹田 辰也
4391	松田 祐季	4420	津久井拓也
4438	森作 雄大	4558	宮野 仁
4740	齋藤 達希	4811	向井田佑紀
4818	伏見 俊介	4819	蜂須 瑞生
4876	梅木 敬太	4880	澤崎 雄哉
5058	前原 大道	5085	中村 栄治
5178	成貞 琳平	5189	藤原 早菜
5198	奥村明日香		

(エ) テクノロジーを活用したスタート事故防止に関する調査研究

スタート事故防止に向けたテクノロジー活用研究委員会と連携し、大時計映像補助表示用LEDモニタ、スタート時における警告灯及び大時計目盛板等の発光に関する調査を行った。

(オ) 技術連絡会議

ボート・モーター等に関する性能向上、事故防止対策等について協議を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
1	令和5年 9月29日	BOATRACE 六本木 及び 各レース場 (リモート)	78名	(報告事項) 1. 各種事故概要 2. 当面の事故防止対策 (1) 防護具の開発・改良 (2) ボート・モーターの改良 (審議事項) 1. 「個人ヘルメット使用に関する注意事項」の一部改正について
2	令和6年 3月22日	BOATRACE 六本木 及び 各レース場 (リモート)	70名	(報告事項) 1. 各種事故概要 2. 当面の事故防止対策 (1) 防護具の開発・改良 (2) ボート・モーターの改良

(カ) レスキュー訓練

航走事故が発生した際、負傷選手を迅速に救助するとともに安全円滑な競技を続行するため、各支部におけるレスキュー訓練を定期的を実施した。

(3) ボート等の改善に関する調査研究

(ア) ボート・モーターの性能改善研究

競走の魅力向上を図り、公正かつ安全なレースを実施するため、ボート・モーター等改善研究委員会を3回開催し、現用ボート・モーターの性能改善等に関する調査研究を行った。

- (a) ボート・モーターの安定性向上に関する調査（キャビテーションプレート等の形状）
- (b) 直線航走時の接触事故防止に関する調査（プラグプロテクタの視認性、ボートの視認性、ステアリングバーの改良、船尾の視認性、ボート側面の緩衝効果）
- (c) 次世代モーターに関する調査
- (d) その他試作品の性能に関する調査

(イ) 防護具等の改善研究

人身事故の未然防止を図るため、救命胴衣等の安全性向上に関する調査研究を行った。

- (a) 救命胴衣の安全性向上に関する調査
- (b) ヘルメットの安全性向上に関する調査
- (c) 試作西日対策シールドに関する調査
- (d) 首周りの防護対策に関する調査（ネックガード）

(ウ) 整備士制度の運営

モーターボート整備士規程に基づき、モーターボート整備士資格制度運営委員会を開催し、モーターボート整備士資格試験を実施して資格の付与を行った。

また、整備士の資質向上を目的として、整備士講習会を開催するなど整備士制度の運営を行った。

(a) モーターボート整備士資格制度運営委員会

モーターボート整備士規程に基づき、整備士の資格試験、講習会等に関する事項を審議するため、青葉六本木ビルにおいて1回開催した。

(b) モーターボート整備士資格試験の実施及び資格の付与

①モーターボート整備士資格試験

モーターボート整備士規程に基づき、1級・2級モーターボート整備士資格試験をヨコクラ病院及びボートレーサー養成所において実施した。

回	級	実施年月日	受験者数	合格者数
57	1級	令和5年 7月6日・7日	8名	7名
111	2級		7名	7名
112	2級	12月22日	8名	8名

②資格の付与

項目	1級整備士	2級整備士	合計
令和4年度末の有資格者	66名	141名	207名
新資格者	7名	15名	22名
資格再付与者	0名	1名	1名
消除者	0名	13名	13名
令和5年度末の有資格者	73名	144名	217名

(c) 整備士講習会

整備士の資質向上を目的として、整備に関する知識及び技量の向上を図った。

①モーターボート整備士講習会

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内容
1	令和5年 10月3日・4日	ボートレース 三国	42名	1. 業界の一般情勢 2. 技術講話・技術実習 3. ビデオレポート 4. 技術課業務説明 5. 業務検討会 6. 施設見学
2	10月25日・26日	ボートレース 平和島	45名	
3	12月10日・11日	ボートレース 常滑	38名	
4	令和6年 1月27日・28日	ボートレース 若松	38名	
5	2月8日・9日	ボートレース 徳山	48名	

② 2級モーターボート整備士試験講習会

モーターボート整備士として必要な知識と技術を習得させるとともに、競走の公正と安全を確保するうえで必要な業界の一員としての自覚や整備士心得等についても会得させ、2級整備士資格取得の一助となるための講習会を行った。

実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
令和5年 11月22日～12月21日	ヨコクラ病院 及び ボートレーサ養成所	8名	1. 整備 2. 計測 3. 操縦 4. 故障探究 5. 学科 6. 修了試験

7. 競走の公正かつ円滑な実施を図るための企画・立案

(1) 諸体制の強化

(ア) モーターボート競走連絡協議会

ボートレースの運営に関し、関係者間の連絡調整を図るとともに、ボートレース場毎の年間開催回数及び年間開催日数について、ボートレース場の運営体制等を勘案し、ボートレース場間の調整を図った。

会議名・実施年月日	内 容
モーターボート競走連絡協議会 開催日数等調整会議 令和5年11月14日	1. 令和6年度モーターボート競走の開催回数及び開催日数について

(イ) ボートレース会議

ボートレース業界全体で推進する施策について、中央団体の代表者を招集し、活性化策の意思決定を行う会議に参加した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
7	令和5年 5月25日	BOATRACE 六本木	9名	1. 今後の業界スローガンについて 2. スタート事故防止に向けたテクノロジー活用研究委員会の推進方針について 3. 今後の重点施策について（関係団体会議からの上程）
8	令和6年 1月22日	シェラトン 都ホテル 東京	8名	1. 重点施策に関する進捗及び今後の推進方針について 2. カーボンニュートラル対応における推進状況について 3. 2023年次売上について

(ウ) ボートレース関係団体会議

ボートレース業界全体で推進する施策について、中央団体の代表者を招集し、活性化策の具体的検討を行う会議に参加した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
20	令和5年 4月19日	BOATRACE 六本木	19名	1. 2022年度売上報告について 2. ボートレース会議に上程する関係団体会議重点施策について 3. 2024年度以降のミッドナイトレースについて
21	5月17日	BOATRACE 六本木	18名	1. 2024年度以降ミッドナイトレースの開催方針確認について 2. ボートレース会議上程用の重点施策確認について
22	6月21日	BOATRACE 六本木他	21名	1. ボートレース会議の開催結果について 2. 今後の重点施策の進め方について 3. 自然災害等の影響を受ける前検日対応について 4. ペアボートの再開について
23	7月19日	BOATRACE 六本木他	19名	1. 上半期売上及びSGグランドチャンピオン売上報告について 2. 今後の重点施策の進め方について 3. 「ONE FAMILY」ロゴについて
24	8月16日	BOATRACE 六本木	17名	1. SGオーシャンカップ、PGIレディースチャンピオン売上報告及び大村ミッドナイト売上速報について 2. 重点施策の進捗について 3. 直前の開催日程の変更について 4. 「ONE FAMILY」ロゴについて
25	9月20日	BOATRACE 六本木	16名	1. ミッドナイト&SGメモリアルの売上分析について 2. 重点施策の進捗報告について

26	10月18日	BOATRACE 六本木	17名	1. 2023年度上半期売上及びスタート事故報告について 2. 重点施策の進捗報告について 3. 共同窓口の設置について 4. 「ONE FAMILY」ロゴについて
27	11月15日	BOATRACE 六本木	17名	1. SGボートレースダービー売上報告について 2. 重点施策の進捗報告について
28	12月15日	BOATRACE 六本木	16名	1. SGチャレンジカップ売上報告について 2. 重点施策の進捗報告について 3. 開催日数の少ない月の対応について 4. 開催区分重複・進行時間の調整について
29	令和6年 1月17日	BOATRACE 六本木	16名	1. 2023年次・SGグランプリ・PGIクイーンズクライマックス売上報告について 2. 重点施策の進捗報告について 3. 2024年度開催日程について
30	2月21日	BOATRACE 六本木	16名	1. PGIボートレースバトルチャンピオントーナメント売上報告について 2. 重点施策の進捗報告について
31	3月19日	BOATRACE 六本木	16名	1. SGクラシックAI売上予測について 2. 重点施策の進捗報告について

(エ) 公営競技各団体との連絡会議等

(a) 公営競技企画連絡会議

他公営競技と各種情報の交換を図るため、各公営競技団体の事務所において開催する会議に参加した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内容
251	令和5年 5月12日	JRA	23名	1. 公営競技の当面の諸問題について
252	10月 5日	ボートレース 戸田	19名	
253	令和6年 1月24日	NAR	23名	

(b) 公営競技会長・理事長懇談会

他公営競技と各種情報の交換を行った。

回	実施年月日	出席者数	内 容
140	令和5年 7月13日	7名	1. 当面の諸問題について
141	11月17日	7名	

(2) ボートレースの普及及びイメージアップを図るための広報

(ア) スター選手育成に関する事業

スター選手育成実行部会を開催し、スター候補選手の選考を行い、スター選手としての心構えや他競技のスポーツ選手による講話、メディア体験研修等のトップルーキー講習会やフレッシュルーキー実技訓練を実施し、スキルアップを図った。

また、地区別合同実技訓練担当者会議を開催し、地区別合同実技訓練の内容を見直すなど若手選手の技量向上に努めた。

(a) スター選手育成実行部会

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
25	令和5年 11月16日	BOATRACE 六本木	11名	1. 2024スター候補選手の選出について 2. 2024スター候補選手のPR展開について 3. 2024トップルーキー講習会について 4. 2024フレッシュルーキー実技訓練について

(b) 2024トップルーキー講習会

実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
令和6年2月28日	BOATRACE 六本木他	7名	1. 他競技のトップアスリートによる講話 2. 体幹トレーニング 3. トップルーキーとしての心構えについて

(c) フレッシュルーキー実技訓練

①2024フレッシュルーキー実技訓練

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
1	令和5年 4月10日 ～12日	ボートレーサー 養成所	14名	1. 操縦 2. 実技指導選手による講話 3. スター選手育成実行部員による 講話 4. 体幹トレーニング
2	4月19日 ～21日		17名	
3	令和6年 3月5日 ～7日		12名	

(d) 令和5年度地区別合同実技訓練担当者会議

実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
令和5年6月16日	ボートレース 大村	15名	1. 次年度以降の訓練内容等について

(e) 地区別合同実技訓練

地区	実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
関東	令和5年 6月20日 ・21日	ボートレース 多摩川	8名	1. 操縦訓練 (小型カメラ撮影含む) 2. 整備訓練 3. プロペラ修整
	8月8日	ボートレース 江戸川	7名	
	10月25日 ・26日	ボートレース 桐生	9名	
東海	令和5年 8月21日 ・22日	ボートレース 津	5名	
	9月13日 ・14日	ボートレース 浜名湖	9名	
	10月10日 ・11日	ボートレース 常滑	8名	
近畿	令和5年 5月25日 ・26日	ボートレース 琵琶湖	8名	
	9月6日	ボートレース 三国	6名	
	11月1日	ボートレース 琵琶湖	8名	

中四国	令和5年 5月25日 ・26日	ボートレース 児島	7名
	7月4日 ・5日	ボートレース 鳴門	5名
	8月21日	ボートレース 宮島	7名
九州	令和5年 6月17日	ボートレース 大村	8名
	8月1日 ・2日	ボートレース 芦屋	10名
	10月18日 ・19日	ボートレース 福岡	11名

(f) スター候補選手のパブリシティ

スター候補選手を積極的に活用することにより、各地のマスコミ（地方紙、全国紙支局、ラジオ等）にて、スター候補選手自身のPRを通じてボートレースの啓発、主要レースの話題化を図るとともに選手募集活動のPRを行った。

(イ) 広報の充実

(a) 広報活動

①SG競走等

8SG競走、5プレミアムGI競走、GII全国ボートレース甲子園競走・レディースオールスター競走、選手養成訓練修了記念競走・修了式、入所式、優秀選手表彰式典等の話題性のある内容について、お客さまをはじめ、社会全般に対しボートレースの広報を行った。

②一般パブリシティ

Web、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等、全国のマスメディアに対してボートレース事業のパブリシティ活動を積極的に行い、業界のイメージアップを図った。

③ペイドパブリシティ

新聞、雑誌等のマスメディアへの選手募集を中心としたペイドパブリシティ活動を行い、選手の認知度向上、業界のイメージアップを図った。

④公式SNS

若年層の取り込みを図るため、公式SNSとしてのフェイスブック及びインスタグラムを運営し、SG競走等における密着レポート等の情報発信を定期的に行った。

(b) 資料作成等

業界関係者、マスコミ関係者に対する広報、宣伝活動に活用するための資料を作成するとともに、選手成績等に関わる広報関係データベースのシステムを開発した。

- ①各種レース写真提供及び競走成績に関する資料作成
- ②選手成績等に関わる広報関係データベースのシステム開発

(c) 優秀選手の表彰

選手の競走意欲の助長とPR効果を高め、かつ、ボートレースのイメージアップを図るため、優秀選手表彰規程に基づき選考委員会並びに表彰式典を行った。

①選考委員会

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和6年1月5日	青葉六本木ビル	9名	1. 優秀選手表彰規程に基づく優秀選手の選出について

②優秀選手表彰式典

実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
令和6年2月1日	品川プリンスホテル	約400名	1. 選考委員会で選出された優秀選手表彰について

(ウ) 選手の募集

(a) 募集担当者会議

選手募集活動のあり方を検討し、円滑な募集活動の実施を図るため開催した。

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和5年4月12日	KITENA新大阪	54名	1. 入所試験結果、養成訓練状況等について 2. 選手募集について

(b) 選手募集活動促進のための広報

①募集イベントの実施

振興会と協力し、東京、愛知、大阪の大都市圏の商業施設において募集ブースを設置したほか、北海道、岩手、宮城などの高校において募集イベントを実施した。

②ポスター、パンフレット等の配布

第136期及び第137期選手養成員の募集活動として、振興会と協力し、募集用ポスター、パンフレット等を作成し、ボートレース場、ボートレースチケットショップ等へ配布した。

③Web等を活用した資料請求

ボートレースオフィシャルWebや各ボートレース場のホームページ、携帯電話のサイトを活用した資料請求の通年受付を実施した。

④受験申請書のダウンロード

選手募集Webページにおいて、PDF及びEXCELの受験申請書のダウンロードを可能とし、受験生の利便性向上を図った。

(エ) 資料の収集、諸統計の作成及び刊行物の発行

ボートレース事業の現況をお客さま及び関係者等に周知・徹底するため、各種資料を作成し、ボートレース業界のトピックス内容をSNSで配信した。

①ニュースリリース (随時)

②マンスリーレポート (毎月1回)

③公式SNS (年間約1,100回)

(3) 集客のための広報

(ア) SG競走等の広報支援

(a) SG競走の広報

売上向上のために各種リリース発信、競走開催中の記者席対応等、幅広くマスメディアへの情報提供を行った。

(b) プレミアムGI競走等の広報

ボートレースバトルチャンピオントーナメント、クイーンズクライマックス、マスターズチャンピオン、ヤングダービー、レディースチャンピオン、全国ボートレース甲子園、レディースオールスターの注目度を高めるため、各種リリース発信、競走開催中の記者席対応等、幅広くマスメディアへの情報提供を行った。

(c) ボートレースオールスター及びレディースオールスター出場選手のファン投票方法の充実

ボートレースオールスター及びレディースオールスターのファン投票の充実を図るため、ファン投票の日に限定したマークシートによる投票に加え、ボートレースオフィシャルWeb及びスマートフォンを活用した投票を実施した。

(イ) 全国広報・宣伝担当責任者会議

振興会との共催で、全国広報・宣伝担当責任者会議を開催し、令和6年のボートレースCMなどボートレースに係る広報全般について連絡・周知を図った。

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和5年12月6日	TKP 品川	124名	1. BOATRACE振興会広報部の 事業概要等について

(ウ) 広報研修会議

ボートレースにおける広報活動の重要性を確認し、具体的な広報活動の進め方について研修を行い、本部広報課と支局の広報対応の強化を図った。

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和6年3月4日	TKP赤坂 及びTBS	20名	1. メディアと広報の現状について 2. TV企画が通るまで 3. 施設見学

(4) 関係者の資質向上に関する事業

(ア) 人事研修会

執行役員及び幹部職員を対象に労働法に係る知識習得等を図るため、人事研修会を実施した。

(イ) 労務研修会

執行役員及び幹部職員を対象にメンタルヘルスに係る知識習得等を図るため、労務研修会を実施した。

(ウ) 階層別人事労務個別研修会

幹部職員を対象に人事考課制度及びリーダーシップに係る知識習得を図るため、また、若手・中堅職員を対象にハラスメントに係る知識習得等を図るため、それぞれ階層別人事労務個別研修会を実施した。

(5) その他の事業

(ア) 永年功労者の表彰

永年功労者表彰規程に基づき、永年にわたり本会関係者または選手としてボートレースの発展に寄与した功労者に対し、各ボートレース場等にて表彰を実施した。

勤続年数	競走会	選 手	合 計
30年	29名	44名	73名
20年	18名	58名	76名
合 計	47名	102名	149名

モーターボート整備士規程に基づき、永年にわたり整備士としてボートレースの発展に寄与した功労者に対し、各ボートレース場にて表彰を実施した。

勤続年数	整備士
30年	3名
20年	1名
合計	4名

(イ) 売上新記録達成ボートレース場の表彰

節間売上において新記録を達成したボートレース徳山に対し、売上新記録表彰を実施した。

8. 海事知識の普及

(1) アマチュアモーターボートレースの支援

各種アマチュアモーターボートレース等への協賛を行い、競走会会長賞を交付し、海事知識の普及を図った。

(2) ゴムボート大会等の実施

ボートレース事業への理解と海事知識の普及を図るため、ボートレース場等において、近隣地域の住民を対象としたゴムボート大会等を実施した。

(3) 各地海事広報協会との共同事業の実施

ボートレース場が存在する各地海事広報協会との共同により、主にボートレース場等を活用したパネル展示等を実施し、海事知識の普及を図った。

実施場所	実施年月日	内容
ボートレース 桐生	令和5年 9月17日	海事関係資料配布による普及活動
ボートレース 戸田	5月20日	海事関係資料配布による普及活動
ボートレース 江戸川	8月27日	海事関係資料配布による普及活動
ボートレース 平和島	10月21日	海事関係資料配布による普及活動
ボートレース 多摩川	7月30日	海事関係資料配布による普及活動
ボートレース 浜名湖	7月 6日他	清水港周辺海事施設にて海洋教室を実施
ボートレース 蒲郡	8月22日他	伊勢湾クルーズ開催時に普及活動

ボートレース 常滑	8月22日他	伊勢湾クルーズ開催時に普及活動
ボートレース 津	8月24日	四日市コンビナートクルーズ開催時に普及活動
ボートレース 三国	7月29日	バーチャルボートレース体験参加者に海事関係資料を配付
ボートレース 琵琶湖	7月16日他	ゴムボート大会開催時に普及活動
ボートレース 住之江	10月22日他	住之江フェスティバル開催時に普及活動他
ボートレース 尼崎	8月 6日他	尼崎ボートフェスティバル開催時に普及活動他
ボートレース 鳴門	7月21日他	パネル展示等による普及活動
ボートレース 丸亀	8月 1日他	パネル展示等による普及活動
ボートレース 児島	7月29日	パネル展示等による普及活動
ボートレース 宮島	8月 8日	パネル展示等による普及活動
ボートレース 徳山	8月27日	パネル展示等による普及活動
ボートレース 下関	10月 7日	パネル展示等による普及活動
ボートレース 若松	7月 8日	パネル展示等による普及活動
ボートレース 芦屋	6月10日	パネル展示等による普及活動
ボートレース 福岡	7月17日	パネル展示等による普及活動
ボートレース 唐津	7月23日	パネル展示等による普及活動
ボートレース 大村	9月 2日	パネル展示等による普及活動
ボートレース チケットショップ 京都やわた	10月 1日他	海の写真コンクール受賞作品展示による普及活動
ボートレース チケットショップ 梅田	10月 1日他	海の写真コンクール受賞作品展示による普及活動

Ⅲ. 実施した競走実施業務以外の業務

1. その他本会の目的を達成するために必要な事業

(1) 広域発売の推進

競走会運営型ボートレースチケットショップにおいて舟券の発売等に関する事務、ギャンブル等依存症対策、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策、その他運営に関する広報宣伝、集客イベント等を行うとともに、競走会運営型ボートレースチケットショップ運営責任者を招集した会議を開催し、効率的な運営、情報共有等を図った。

(ア) 競走会運営型ボートレースチケットショップ責任者会議

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和6年3月14日	TKP 新大阪	11名	1. 令和5年度公営競技の売上状況等について 2. 公営競技の場外発売場の設置状況について 3. 令和5年度競走会運営型ボートレースチケットショップの収支状況について 4. 令和6年度以降の競走会運営型ボートレースチケットショップの方針について

IV. 理事会、評議員会等の開催及び認可事項

1. 理事会、評議員会等

(1) 理事会

定款に基づき8回開催し、以下について審議を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
67	令和5年 5月11日	BOATRACE 六本木	11名	第1号議案 令和4年度事業報告に関する件 第2号議案 令和4年度決算に関する件 第3号議案 公益目的支出計画実施報告書に関する件 第4号議案 第17回評議員会の日時及び場所並びに目的である事項に関する件 報告事項 各理事の職務執行状況に関する件
68	5月30日付	書面決議	11名	第1号議案 常勤の理事の選定に関する件 第2号議案 役員報酬に関する件
69	7月 5日	BOATRACE 六本木	12名	第1号議案 令和6年度SG競走等の開催地に関する件 第2号議案 競走会諸規程及び諸内規の一部改正に関する件
70	10月19日付	書面決議	12名	第1号議案 一般財団法人BOATRACE振興会との確認書の締結に関する件
71	令和6年 2月 1日付	書面決議	12名	第1号議案 任期満了に伴う次期執行役員を選任に関する件 第2号議案 主たる事務所の移転に関する件
72	2月22日	BOATRACE 六本木	12名	第1号議案 令和5年度収支予算の一部変更に関する件 第2号議案 令和6年度事業計画に関する件 第3号議案 令和6年度収支予算に関する件

				第4号議案 競走会諸規程及び諸内規の一部改正に関する件 第5号議案 事務所移転に伴う費用負担に関する件 第6号議案 第18回評議員会の日時及び場所並びに目的である事項に関する件 報告事項 各理事の職務執行状況に関する件
73	3月28日付	書面決議	12名	第1号議案 一般財団法人BOATRACE振興会との取引に関する件

(2) 評議員会

定款に基づき1回開催し、以下について審議を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内容
17	令和5年 5月26日	BOATRACE 六本木	4名	第1号議案 令和4年度決算に関する件 第2号議案 理事の選任に関する件 報告事項 令和4年度事業報告に関する件 公益目的支出計画実施報告書に関する件

2. 認可事項

(1) 役員を選任について

令和5年6月6日（国海総第86号）

(2) 令和5年度収支予算変更について

令和6年3月7日（国海総第355号）

(3) 令和6年度事業計画及び収支予算について

令和6年3月7日（国海総第356号）

3. 三規程委員会委員（令和6年3月31日現在）

(1) 選手、審判員及び検査員登録資格審査会

所 属	役 職	氏 名	備 考
弁 護 士		三 浦 雅 生	委 員 長
東京都六市競艇事業組合	事 務 局 長	村 野 正 義	
選 手 会	専 務 理 事	鈴 木 茂 正	
競 走 会 常 滑 支 部	執 行 役 員	新 美 茂 典	
競 走 会 児 島 支 部	執 行 役 員	中 地 清 二	
競 走 会 徳 山 支 部	執 行 役 員	山 門 昇	
競 走 会 本 部	業 務 部 長	茅 野 知 宏	

(2) 選手出場あっせん委員会

所 属	役 職	氏 名	備 考
振 興 会	常 務 理 事	香 川 洋 一	委 員 長
府中市ボートレース企業局	企 業 局 長	柏 木 茂 永	
選 手 会	専 務 理 事	鈴 木 茂 正	
競 走 会 桐 生 支 部	執 行 役 員	渡 辺 和 幸	
競 走 会 本 部	業 務 部 長	茅 野 知 宏	

(3) 選手、審判員及び検査員褒賞懲戒審議会

所 属	役 職	氏 名	備 考
弁 護 士		三 浦 雅 生	委 員 長
保 安 協 会	常 務 理 事	岩 崎 和 彦	
全 施 協	専 務 理 事	佐 藤 慶	
戸田ボートレース企業団	事 務 局 長	八木橋 英 一	
箕面市ボートレース事業局	ボートレース事業管理者	栢 本 貴 男	
施 設 協	事 務 局 長	赤 坂 忠 男	
選 手 会	専 務 理 事	鈴 木 茂 正	
競 走 会 本 部	理 事	水 谷 剛	
競 走 会 丸 亀 支 部	執 行 役 員	尾 藤 弘 之	
競 走 会 下 関 支 部	執 行 役 員	岩 田 政 次	

4. 役員、評議員及び職員（令和6年3月31日現在）

（1）役員 14名

役職名・氏名	現職
会長 小高幹雄	
理事長 潮田政明	
常務理事 横山久也	
〃 堀正直	
〃 林昌彦	
〃 渡邊哲宏	
理事 野村真人	
〃 森永洋	
〃 水谷剛	
〃 大内桂太郎	
〃 照沼幸雄	
〃 高野浩一	
監事 篠原通夫	公認会計士・税理士
〃 山本厚	弁護士

（2）評議員 5名

氏名	現職
伊東高廣	株式会社日本レジャーチャンネル 代表取締役社長
笹川順平	公益財団法人日本財団 常務理事
佐野慎輔	産経新聞 客員論説委員
菅原悟志	公益財団法人B&G財団 理事長
三浦雅生	弁護士
（50音順）	

（3）職員等

令和5年度の採用者は29名、退職者は8名であった。

また、令和6年3月31日の現在員数は、768名であった。

5. その他

(1) 令和6年3月31日現在の株式保有の概要

名 称 : 株式会社日本レジャーチャンネル

事務所の所在地 : 東京都港区六本木5-16-7 BOATRACE六本木1階

資本金 : 1億円

事業内容 : ボートレースを主とした映像・情報の提供及びレジャー番組の
企画・制作

役員数及び代表者の氏名 : 8名 (非常勤4名含む)

代表取締役社長 伊東 高廣

従業員の数 : 76名

保有する株式数及び割合 : 1,000株、50%

当該株式等の入手日 : 平成4年4月17日

当会との関係 : 当会と株式会社日本レジャーチャンネルとは別組織体であり、
経理処理の混同、職員の兼務、不合理な資金融通等は一切行わ
れていない。

令和5年度事業報告書の附属明細書について

令和5年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書に記載する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。